

2023年10月25日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 外部連携団体からのお知らせ
- 3) 健康心理学コラム vol. 130 「統合失調症からの回復を越えて」角田京子（東洋大学）

1) 学会からのお知らせ（<https://kenkoshimi.jp/>）

■日本健康心理学会第36回大会のお知らせ（日本健康心理学会第36回大会準備委員会より）

プログラム速報版、まもなくリリース！招待講演、各種シンポジウム・ワークショップ、約100件のポスター発表など見どころ満載です！ぜひご参加ください。

託児など当日のご案内も間もなくリリース致します。準備委員会一同、先生方のご参加をお待ちしております。

日本健康心理学会第36回大会ホームページ

<https://jahp36th.fjss.jp/>

■セミナーや調査等に関するお知らせ（事務局より）
詳細につきましては、各URLへアクセスしご覧ください。

・「公認心理師実習演習担当教員・指導者養成講習会」の参加申込のお知らせ

https://www.ncnp.go.jp/hospital/patient/rinshoshinri/rinshoshinri_kourou.html

・公認心理師活動状況等調査の実施について
厚生労働省の公認心理師制度推進室より調査協力依頼の連絡が来ております。

有資格者にはハガキが送られてくるとのことです。

・医学中央雑誌刊行会「120周年記念講演会」のお知らせ

<https://www.jamas.or.jp/news/news180.html>

・公益財団法人8020推進財団「第21回フォーラム」のお知らせ

<https://www.8020zaidan.or.jp/forum/>

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog（PHPB、実践健康心理学ブログ）の10月記事のお知らせ（国際委員会より）

“Improving the delivery of brief alcohol advice in primary care: views from both sides of the consultation table.”の日本語記事「プライマリ・ケアにおけるアルコールのブリーフ・アドバイスの改善：診察台の両側からの意見を踏まえて」が掲載されました。

下記URLよりご覧ください。

<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2020/11/improving-the-delivery-of-brief-alcohol-advice-in-primary-care-views-from-both-sides-of-the-consultation-table/>

※アクセスの際は、URL 全てをコピーしアドレスバーへペーストの

うえご高覧ください。

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

■学会ホームページ更新情報（広報委員会より）

2023年度の健康心理士試験要項が新たに掲載されました。

<https://kenkoshimi.jp/shinsei.html>

2) 外部連携団体からのお知らせ

■禁煙推進学術ネットワーク事務局よりお知らせ

禁煙推進学術ネットワーク事務局より「デジタル医療研修会」の開催につきましてご案内がありました。詳細は下記のURLへアクセスしご確認ください。

セミナーページ：https://tobacco-control-research-net.jp/activity/tcr-net_seminar/index.html

第1回講演会ページ：https://tobacco-control-research-net.jp/activity/tcr-net_seminar/index.html#ca4c54b5

申込ページ：<https://eventin.space/e/xxJNYj1aQac2N5e3kw1q/register>

3) 健康心理学コラム Vol. 130

「統合失調症からの回復を越えて」

角田京子（東洋大学）

統合失調症は19世紀末に疾病概念が基礎づけられた際、脳における荒廃へのプロセスが病気の本質であるとされ、現在でもやはり予後不良の難治例はある（Krapelin, 1899）。20世紀中葉には抗精神病薬の治療が世界に普及して寛解への期待が持てるようになったが、無為自閉傾向を保って穏やかな生活ができるという程度であり、そうした臨床像にはやはり慢性進行性の疾患としての悲観的理解があったように思う。しかし徐々に長期経過の実態調査も試みられ、最終的には半数程度の人が自立した生活が可能になるという報告もあって、今世紀には本格的な回復が治療目標となってきた（Davison et al., 2004）。

ここで、筆者が診療所の精神科外来で20数年に渡ってフォローしてきた統合失調症の患者さんたち個々のケースをあらためて振り返ると、数年の水準低下の時期を経た後で、いつの間にか発症前よりも豊かな人生を送っている人が少なくない。結婚や育児によって家庭の幸せを実感する、仕事で指導的に、あるいはクリエイティブに活躍するなどである。この背景要因には彼らが通院服薬を継続して病状悪化を防いだこともあるが、その上で家庭や職場での生活経験を積んだことが大きいと思われる。

現在の治療指針は薬物療法の継続を基本として、様々な心理療法や支援を組み合わせて回復をめざすものである（Klingberg et al., 2007）。そこで社会がインクルーシブであり、治療目標を越えた豊かな人生も実現可能であり、その豊かさは非特異的なもので社会の豊かさにも通じている。患者さんのインクルージョンと社会の豊かさの関連について、エビデンスが出てくることも期待したい。

引用文献

Davison, G. C., Neale, J. M., Kring, A. M. (2004). *Abnormal Psychology*. Wiley.

（デビソン, G.C. 原著, 下山 晴彦編訳 (2006). シリーズ臨床心理学 4. 精神病と物質関連障害. 誠信書房)

Klingberg S., Roesch-Ely, D., Buchkremer, G., Mundt, Ch. (2007). Psychotherapie der Schizophrenie. In: Herpertz et al. (Hrsg), Störungsorientierte Psychotherapie. Urban & Fischer Verlag/Elsevier GmbH.

Kraepelin, E. (1899). Psychiatrie. Ein Lehrbuch für Studierende und Aerzte. Sechste, vollständig umgearbeitete Auflage., II. Band. Verlag von Johann Ambrosius Barth, Leipzig.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止, アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは, こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshimri.jp/health/health1.html#mailmaglist>